

# 甲斐市立竜王南小学校 平成25年度 前期学校関係者評価書

平成25年7月19日

竜王南小学校関係者評価委員会

記載責任者 学校関係者評価委員 志村 秀剛

## 【第2回 学校関係者評価委員会】

- 1 実施日: 平成25年7月19日(金)午後7時30分～
- 2 会場: 会議室
- 3 参加者: 学校関係者評価委員

学校評議員(4名)			
梶原照夫	込山伸一	河野良夫	鶴田重雄
PTA役員(4名)			
会長	副会長		
志村秀剛	山王正徳	古久保恵理子	秋山和彦
学校職員(4名)			
校長	教頭	主幹教諭	生徒指導主任
太田 充	内藤和彦	小西一彦	西川孝雄

出席者 計10名

欠席者 計2名

・込山伸一

・山王正徳

## 4 学校側から提案された内容

○学校評価アンケートの分析について

- (1) 教職員自己評価の結果
- (2) 本校児童アンケートの結果
- (3) 結果概要説明

## 5 協議内容・意見

### ○竜王南小学校前期自己評価書に関する考察

(教職員・児童・保護者アンケートの考察／改善方策に対する検証)

#### (1) 学校側から提案された全体評価考察

昨年度は、学校長から2学期により明確な方針が打ち出されたことにより、子どもの出番、居場所のある学校を目指してきたことに関して、成果が見られ始めた。Q-Uによる学年・学級経営、さらに全国学力学習調査及び山梨県学力把握調査の結果を分析し、学校全体で共通理解のもと取り組んできた努力が形になってきたといえる。

今年度は、昨年度の成果を大事にした上で、全児童全職員からアンケートを取り、学校生活で大切にしていけるべき項目を「当たり前10ヶ条」として制定した。当たり前に活動できる生活を実現させるべく、全校集会、学習場面、生活場面で生活習慣の向上を目指してきた。児童アンケート結果を見ても、「学校は、楽しいですか。」の項目では、A+B回答で70%以上の回答を出していること、D回答も6%以下になっていることから楽しい学校生活が送られていることがわかる。職員の自己評価における「学校教育目標・学校経営について」の各項目を見ても、A+B回答がすべて90%以上になっている状況から、学校長の学校経営方針が浸透していることがうかがえる。

2学期は、授業公開も控えており、各クラスともにQ-Uの分析から学級経営改善を行い、「楽しい学校」「楽しい学年・学級」を目指し、取り組むとともに、落ち着いた、安心なクラスを軸に、学力向上を確実に進めていく方向である。また、保護者―地域との連携を昨年度より深くし、ゲストティーチャー授業、道徳公開、学級懇談会など新しい試みで学校との距離を縮め、子どもたちを支援できる学校づくりを推進していくつもりである。

#### (2) 意見交換(参加者からの提言等)

##### ・進め方と意見交換の様子について

今回の学校関係者評価委員会は、今年度初めての開催であり、自由に意見が言える雰囲気重視した。始める前に、50インチTVで本校のHPを映し出し、これまでの学校の様子を見ていただいた。HP担当の西川生徒指導主任から説明があり、学校生活のきめ細やかな情報提供には良い評価をいただいた。また、学校周辺の動植物も丁寧に紹介されており、出席者からも、様々な動植物の生態に、驚きの声が出た。

こうした雰囲気の中で、自由に気づいた点を発言していただき、実情・改善について話し合った。出席者全員が意見を述べるなど積極的な意見交換ができたといえる。初めて、出席する方もおられたので、結果や説明に対しての質問も多く出され、学校に対する関心の高さがうかがわれた。

- 「わからない」(自己評価)回答の状況

自己評価及び自己評価集計結果を先に見ていただき、概要説明を行った。説明後に、委員の中から、「わからない」の回答数について、どのような状況で記載されるのか質問があった。

委員は、「質問内容について状況が把握されていない」という状況を心配しての意見であった。学校側としては、学習指導等で、授業に直接関わらない教務関係の職員が回答する場合があることを説明した。

結果を見た側からすれば、「どういうことなのか」と疑問を持つことにもなるので、今後は、「わからない」と回答する場合の留意点を、もう少し説明した上で回答してもらうことを再確認した。

- 少人数回答に対して、どのように対処していくか

C（ややそう思わない）、D（そう思わない）回答状況について、質問があった。今回もC及びD回答に対する備考回答はなかったため、回答者の意図は説明できなかった。全体的にA（そう思う）、B（ややそう思う）でほぼ90%以上の回答ただけに、C、Dに対する回答は、少数であっても「どのような状況であったのか」「どこに不備があったのか」「どうして、そう感じるのか」見逃せない回答だといえる。

学校側としては、学校全体として、機能していても、回答者自身がその質問に満足できる働きができなかった場合、回答者の気持ちとしてC、Dと回答してしまう場合があることを説明した。また、学校側も、なぜ、CやDに回答したのか、機能的にどこに不備があったのか心配していただけに、出席者からの質問にも納得がいった。

委員からは、たとえば、A+B回答が90%以上であっても、勇気を持って、回答してくださった方の意見を尊重して、改善を図っていくことは、企業では絶対的に必要なことだけに、学校側も意見を大切に、改善に向けて検討してほしいという建設的な意見をいただいた。

学校側も、同様な意見であったので、大切にしていくことを再確認した。大切にするためには、CやD回答に対して、積極的に具体的な意見を記入してもらえ工夫を進めて、改善に努めていくつもりである。

- 教職員の多忙感について

前年度、後期学校関係者評価委員会においても意見が出された話題である。「先生たちに多忙感が見られる。早く帰宅して、体を休めて、次の日、子どもたちと一緒に楽しく授業を進めてほしい。」という意見である。学校現場に足を運ぶことが多いが、「もう少し余裕を持たせたいと感じる職員が見られる。」という意見から、追われている職員が心配であるという意見が出された。1つの事件、事故は、学校のみならず、家庭でも起こりうる可能性がある。それを防ぐためには、職員の生活に余裕と充実を持たせ、そこから、本務である子どもたちに関わらせてあげたいという職員のメンタルヘルスを心配する意見も出された。

有給休暇も権利として行使してもらい、リフレッシュした上で、本務に向き合える環境を整えてほしいという要望も出された。

学校側も、常に管理職が職員のメンタルヘルスを大事にして、組織として、すぐに対応できる体制づくりや職員の心身を大切にしたり日頃からの声かけなどの様子を説明し、今後も職員の働きやすい環境作りを目指していくことを確認した。

- **地域との連携**

委員からは、学校は、学校生活を中心に指導する体制にしていくことが大切で、下校後の生活は、基本的には、保護者や地域が背負っていくべきという意見が出された。家庭や地域がもっと、子どもたちの生活について指導していけるようになっていくことが必要である。そのために、家庭や地域も努力していかなければならないことを確認した。

学校もゲストティーチャーや地域人材で昨年から連携の重要性を認識し、活動を進めている。様々な学習場面で地域の人たちの力を借りて、子どもたちが多くの人から様々なことを学んでいくことは、これからの教育には不可欠である。2学期も、積極的に地域人材を活用し、指導を進めていきたい。

- **暑さ対策について**

7月の道徳授業参観に参加された保護者から「この暑さはどうにかならないのか。子どもたちも大変だ。」という声が多く聞かれた。双葉地区にはクーラーが設置されているのに、なぜ竜王地区にはないのか。」という声も委員には届いていたようだ。

学校側としては、地域の人たちとも協力し、グリーンカーテン設置を行っている。今年度は、児童会を中心に子どもたちの意識を高め、学校にできる暑さ対策を進めてきた。こうした取り組みを保護者に理解してもらい協力していただく取り組みや市にも暑さ対策を呼びかける必要性があるとの意見をいただいた。

学校側も、学校としてできる対策、取り組みをさらに進めていくように努めていくつもりである。

- **教師の資質向上について**

教師も多忙で非常に大変な状況である。しかし、子どもたちと一緒に取り組める体制をつくることで、達成感を高めてほしい。教師が授業を通して楽しんでもらえるくらいの日常を創りあげてほしいという意見が出された。

学校側も、Q-U分析や学力向上対策を通じて、子どもたちが楽しいと思える学校を創りあげようと日々努力している。学校目標「楽しい学校（楽校）の創造」を具現化することが、達成感につながると信じている。2学期の公開に向けて、まず学年・学級経営を重要視し、学級懇談会等で話し合われたことや児童アンケートの結果をもとに、楽しいと感じられる学校をめざして、全職員で努力する覚悟である。

- **見える化・透明化について**

少数意見を大切にして、改善することが大切であるという意見が出された。それをフォローしていける学校組織作りを目指して進めてほしいという要望も出された。そのためには、一人ひとりの意見が確実に伝わるのが大事である。

昨年度も「学校の見える化・透明化」が大切であると、話し合われたが、学校組織の中に意見を吸い上げることのできる見える化、透明化を目指し、全職員がチームとして学校を創りあげていくことが大事であることを再確認した。学校長の推進している「チームみなみ」の実現に向けて、2学期もあらゆる場面で、経営・運営の方針が伝わる組織、一人ひとりの力が発揮される校務分掌をさらにアップさせて、地域に認められる学校経営・運営に努めていくつもりである。